電波時計
取扱説明書

取扱説明書番号　MA-Q006D

このたび弊社アナログウオッチをお買い上げいただきありがとうございました。
ご使用の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。この取扱説明書はお手もとに保存のうえ必要に応じてご覧ください。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

●お取り扱いについて

⚠警告　防水性能について

＊防水時計の防水性能や機能を必ずご確認いただき、「取扱説明書」に従って正しくご使用ください。（誤った使用は、危険です。）

- ・非防水時計　：水滴のかかる場所でのご使用はできません。
- ・3気圧（3BAR）防水時計　：洗顔などはできますが、水中でのご使用はできません。
- ・5気圧（5BAR）防水時計　：水泳などはできますが、スキンダイビング（素潜り）などにはご使用できません。
- ・10/20気圧（10/20BAR）防水時計　：スキンダイビングなどはできますが、スキューバダイビングにはご使用できません。
- ・防水性能 …… 時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下図をご参照ください。

りゅうずはきちんと押し込んでご使用ください。

仕様	表示：ケース	表示：文字板	使用例：水のかかる程度の使用。（洗顔、雨等）	使用例：水仕事や一般水泳に使用。	使用例：スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	使用例：空気ボンベを使用するスキューバダイビングに使用。	使用例：水滴がついた状態でのりゅうず操作
非防水	—	—	×	×	×	×	×
3気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST または無表示	○	×	×	×	×
5気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST（5BAR）または無表示	○	○	×	×	×
10気圧防水 20気圧防水	WATER RESIST	WATER RESIST（10/20BAR）または無表示	○	○	○	×	×

ご注意

- ・りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじロック式タイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- ・水分のついたままりゅうずの操作をしないでください。
- ・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。水の中で使うことが多い日常生活防水以上の機能を要する時計の場合は脱色、接着はがれなどの不具合を起すことがありますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用ください。
- ・防水時計の場合、海水に浸した時や汗をかいた後は、真水でよく洗い、よく拭き取ってください。（蛇口の水を直接かけないで、汲んだ水で洗ってください。）
- ・時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気の温度が時計内部より低いときは、ガラス面がくもる場合があります。くもりが長時間消えない時は、お買い上げ店でご相談ください。
- ・一定の防水性能を保つため定期的に（2～3年を目安に）パッキンの交換をしてください。（お買い上げ店でご相談ください。）

⚠警告　二次電池の取り扱いについて

- ・お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
- ・やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
- ・万一、二次電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談して治療を受けてください。

⚠警告　二次電池の交換はしないでください

- ・無理に他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。

⚠注意　充電上の注意

- ・充電により時計が過熱される場合がございます。充電後の時計を腕にはめる際には時計が十分に冷めていることを確認してから腕にはめてください。

⚠注意　携帯時の注意

- ・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分にご注意ください。また、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- ・サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。

⚠注意　金属バンドのお取り扱いについて

- ・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

⚠注意　かぶれについて

- ・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。また、皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起すことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。
- ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。（時々はりゅうず通常位置のままでりゅうずを空回りさせてゴミ、汚れを落としてください。）
- ・かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐ医師に相談してください。
  （かぶれの原因）金属、皮革アレルギー、時計本体およびバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗などです。

〈時計のお手入れ方法〉
- ・ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は柔らかい布で拭き取ってください。
- ・皮革バンドは乾いた布で、汚れを取ってください。

ご注意

温度について
- ・－10℃～＋60℃から外れた温度下では機能低下や、停止することがあります。
- ・直射日光にさらしたり、炎天下の車内など高温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり、電池寿命が短くなります。
- ・屋外など、低温になる所に長時間置かないでください。故障の原因になったり電池寿命が短くなります。

磁気について
- ・磁石には近づけないでください。磁気健康機具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気に近づけると正しい時刻を表示しません。この場合は磁気から離して時刻修正をし直してください。

静電気について
- ・クオーツウオッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示がずれることがありますのでご注意ください。

ショックについて
- ・床面に落とすなどの激しいショックはあたえないでください。

化学薬品・ガス・水銀について
- ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

保管について
- ・長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管ください。

電波時計について

●電波時計とは

この時計は、日本国内の2局の電波送信所（福島局と九州局）から送信される標準電波（時刻情報）を自動選局し、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。
標準電波は、日本の時刻のもとになるもので、セシウム原子時計により作られ電波送信所より送信されております。電波時計は通常クオーツにより駆動しておりますが、約10万年に1秒という超高精度の時刻情報を毎日受信し時計の表示時刻を修正することで、いつでも正しい時刻を得ることができます。

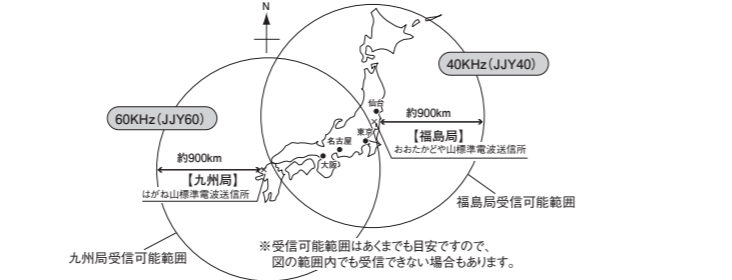
●標準電波について

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）が運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp/

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

●電波送信所について

標準電波は以下の2ケ所より送信されています。

●受信範囲の目安

この時計は福島局および九州局の両局の電波を受信可能です。受信可能範囲としては両局の電波送信所からのそれぞれ距離が900kmが目安です。ただ、これはあくまでも目安であり、その他の要因（周辺の地形、構造物、気象条件など）で900km以内でも受信できない場合がありますのでご了承ください。また、距離が遠くになるにつれて電波は弱くなります。

●受信環境について

受信の場合は、以下のことに注意して行ってください。

●電波遮蔽物
付近に金属等の遮蔽物があると、電波を反射・吸収させるため、受信がしにくくなります。
鉄筋コンクリート建物の中
高層ビルや山などの谷間、地下
車、電車、飛行機の中

●ノイズ発生物
付近に強いノイズを発生させているものがある場合、電波を受信するのが難しくなります。
高圧線（電線）、電車の架線、飛行場（通信施設）、変電所の近く
通信中の携帯電話の近く
TV、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やＯＡ機器の近く

●アンテナの向き
この時計には、ケース内部の9時位置に電波受信用のアンテナが組み込まれています。上手に受信するためにはこのアンテナを電波送信所の方向に向けて、時計を窓際に置いてください。使用環境で受信レベルが変わってきます。時計の受信レベル「H、M、L」を参考に、何度か時計の向きや場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所および方向を探してください。

受信時の時計の向き
〔バンドは、なるべくアンテナの下にこないように伸ばします。〕
アンテナ
電波送信所

●時計の状態
時計は腕から外し、受信中はなるべく時計を動かさないようにしてください。動かしながら行うと、安定した受信ができなくなります。

●温度環境
極端に高温や低温の場所では受信がしにくくなります。

●その他の影響要素
気象条件・雷・地形・季節によっても受信がしにくくなります。

保証とアフターサービスについて

①修理のご依頼は原則としてお買い上げ店に保証書添付の上ご持参ください。
②当社は時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ガラス、側、バンド、文字板、針などの外装部品につきましては、外観の異なる代替部品を使用させていただく事がありますので、ご了承ください。
③保証期間を過ぎたものの修理については、有償にて申し受けます。また修理可能期間につきましては、ご使用の状態でいちじるしく異なりますが、部品保有法定期間に準じます。
④ご贈答、ご転居によりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、下記シチズン時計（株）Q&Q お客様相談室へ保証書を添えてご郵送またはご持参ください。その場合の諸掛りはお客様のご負担となります。
※ご郵送の場合は紛失などを防ぐため簡易書留をご利用ください。

サービス窓口：Q&Qお客様相談室

TEL.	0120-977-319
受付時間	10～12時／13～16時 月～金（祝日、年末年始を除く）
メールアドレス	qqsupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp

製造発売元　シチズン時計株式会社 Q&Q事業部

あかり発電機能について

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。一度フル充電すると、通常の使用状態（パワーセーブが作動しないとき）では約6カ月間時刻を刻み続けます。なおパワーセーブが作動しているときは、約2年間となります。

〈この時計の上手な使い方〉
この時計を快適にご使用いただくためには、常に余裕を持って充電することを心がけてください。
充電は文字板（ソーラーセル面）に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。この時計はどんなに充電しても時計が破損することはありません。
充電の際は、文字板（ソーラーセル面）に光を当ててください。

〈時計は常に充電を心がけてお使いください〉
- ・日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当らないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。特に冬場は、月に一度くらい時計の文字板面に直射日光を当てて充電することをおすすめいたします。
- ・時計を外したときも、できるだけ時計の文字板面に太陽光の当たる窓際等の明るい場所に置くように心がけると、常に充電を続け時計は正しく動き続けます。

1. パワーセーブ機能について

《パワーセーブ》
ソーラーセルに光が当たらず、発電されない状態が連続して1週間継続した場合は、各針が12時で止まり、**パワーセーブ（節電状態）**になります。
- ●日付は、昨日と当日をまたいだ位置で停止します。その後、1日1回午前0時に、自動的に修正されます。
- ●定時受信は、通常運針状態と同じく1日2回受信を行います。
- ●充電警告機能（2秒運針時）が作動中でも、光が当たらないとパワーセーブになります。

《パワーセーブの解除方法》
ソーラーセルに光を当て発電が始まると、パワーセーブが解除されます。
- ●パワーセーブが解除されると各針が高速（正転または逆転）で現在時刻にもどり、１秒運針を開始します。
- ●充電不足の場合は、２秒運針を始めます。十分充電し１秒運針にもどしてください。

注意：パワーセーブ作動中も定時受信を行いますが、保管環境によっては、受信できない場合もあります。パワーセーブ解除後は、(A)ボタンを押して受信結果を確認してください。受信結果が「NO」の場合は、強制受信を行ってからご使用ください。
注意：りゅうずまたは、ボタン操作では、パワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

2. 充電警告機能（秒針が２秒毎に動きます）

ソーラーセルに光が当らず二次電池の容量が少なくなると、秒針が１秒運針から２秒運針（充電警告機能）に切り替わり充電不足をお知らせします。このときも時計は正確に動いていますが、２秒運針を始めてから約６日経過すると、充電不足で時計は止まってしまいます。すぐに直射日光等を当てて十分充電し、もとの１秒運針にもどしてください。

注意：2秒運針しているときは、手動での時刻、カレンダー修正はできません。
注意：定時受信、強制受信ともにできません。

3. 過充電防止機能

文字板（ソーラーセル面）に光が当たり、二次電池がフル充電になると、それ以上は充電されないように自動的に過充電防止機能が働きます。どんなに充電しても二次電池や、時間精度、機能、性能などに影響をおよぼす心配はありません。

4. あかり発電ウオッチ充電時間の目安

時計のモデル（文字板の色など）により充電時間は異なります。あくまでも目安としてご利用ください。

キャリバーNO.	照度（ルックス）	環境	充電時間：一日分の充電時間	充電時間：止まってから一秒運針までの充電時間	充電時間：フル充電時間	フル充電時間からの持続時間
HR15	500	室内照明　500Lux	4時間	－	－	約6ヶ月
	1,000	蛍光灯スタンド（15W2本の下60～70cm）3.000Lux	2時間	130時間	－	
	3,000	蛍光灯スタンド（15W2本の下20cm）3.000Lux	35分	45時間	150時間	
	10,000	曇天　10.000Lux	10分	13時間	45時間	
	100,000	夏の日の直射日光　100.000Lux	4分	2時間	10時間	

※充電時間は連続照射時間です。

※秒針が２秒運針している場合も、“フル充電までの時間”を参考に十分に充電してください。

フル充電時間………時計が充電不足で停止している状態から最大に充電されるまでの時間。
１日分の充電時間…時計を通常運針で１日動かすのに必要な時間。

注意：フル充電後、一度も充電されないと、持続時間は約６カ月となります。パワーセーブが作動しているときは、約２年間時刻を刻み続けます。ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心がけてご使用ください。なお、月に一度は直射日光を当てて充電されることをおすすめいたします。

こんなときは

●正確な時刻を表示しない。
①受信はできてますか？
Aボタンを押して受信結果をご確認ください。
受信ＮＯの場合は時刻修正はされてません。この時計は標準電波が受信できないときはクォーツの精度（月差±20秒）で動きます。受信に適する環境で受信を行ってください。それでも受信できない場合は、お手数ですが、「**2. 電波の受信方法　2. 強制受信**」を参照の上、時刻を修正してください。
②針の基準位置はあってますか？
「**3. 基準位置の合わせ方**」を参照の上、針の基準位置をご確認ください。針の基準位置が正しくなかった場合は針の基準位置を修正してください。

●針がとまったまま動かない。
①**りゅうず**が引き出されたままになってませんか？
りゅうずを通常位置に戻してください。しばらくすると針は動き出します。ただし、時刻は合っていません。
②秒針が**RX**位置に停止していませんか？
受信中の可能性があります。受信がおわるまで約15分待って再度、針の状態をご確認ください。

●受信が成功しない。
①受信環境が良くない所で受信していませんか？
「**電波時計について 受信環境について**」を参照の上、受信環境を改善してください。

●受信確認の際、針がずれている。
①針の基準位置は合っていますか？
「**3. 基準位置の合わせ方**」を参照の上、針の基準位置を修正してください。

●秒針が2秒運針をしている。
①充電警告をしていませんか？
時計が止まる前に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。

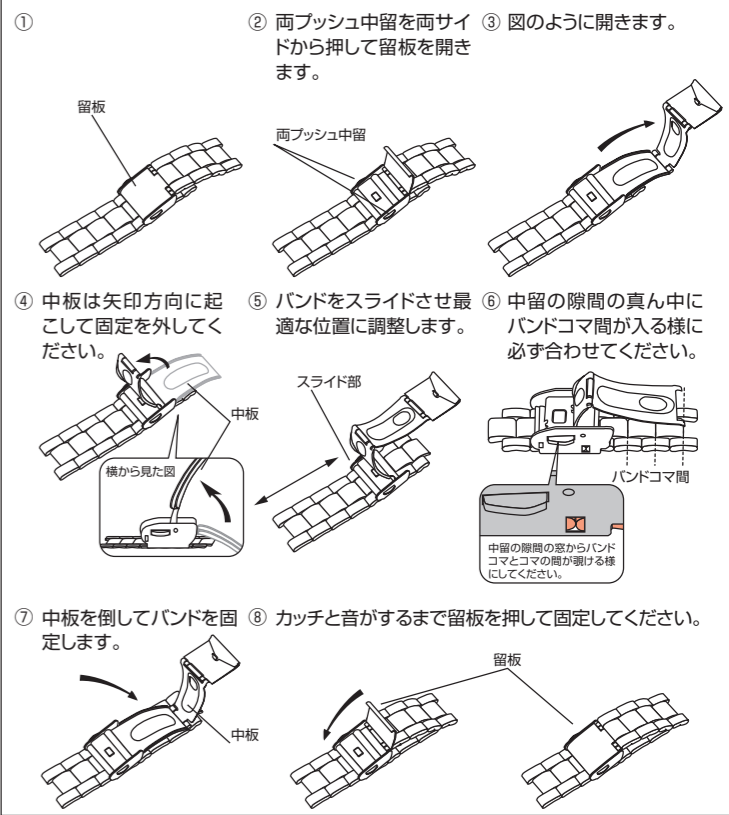
バンド調整方法

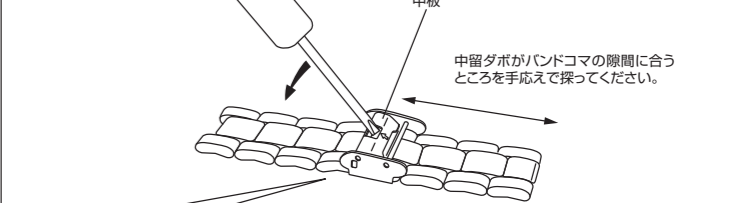
⚠注意

●バンド調整について
- ・バンド中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- ・バンド調整後不要になったピン、コマ等は危険ですので、そのまま放置しないで安全な場所に保管してください。
- ・作業を行うときは、けがや事故防止のため十分注意してください。（万一ケガ等された場合、メーカーとして責任は負いかねます）

三ツ折フリーアジャストバンド

①
② 両プッシュ中留を両サイドから押して留板を開きます。
③ 図のように開きます。
④ 中板は矢印方向に起こして固定を外してください。
⑤ バンドをスライドさせ最適な位置に調整します。
⑥ 中留の隙間の真ん中にバンドコマ間が入る様に必ず合わせてください。

⑦ 中板を倒してバンドを固定します。
⑧ カッチと音がするまで留板を押して固定してください。

スライド式フリーアジャストバンド（中留ダボの形状が2種類あります。）

① ドライバーの様なもので中板を持ち上げます。腕の太さに合う様にスライドさせ、位置を調整します。

⚠注意　中板を固定する時は、中留ダボと、バントコマの隙間を合わせてください。中留ダボがバンドコマの隙間に入らないとはまりません。無理に中板を戻すと破損する恐れがあります。

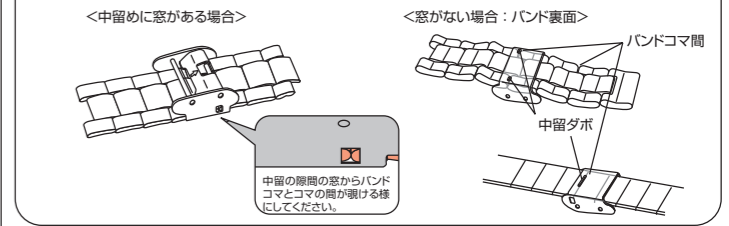
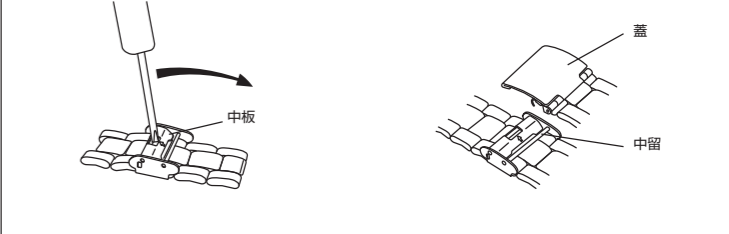
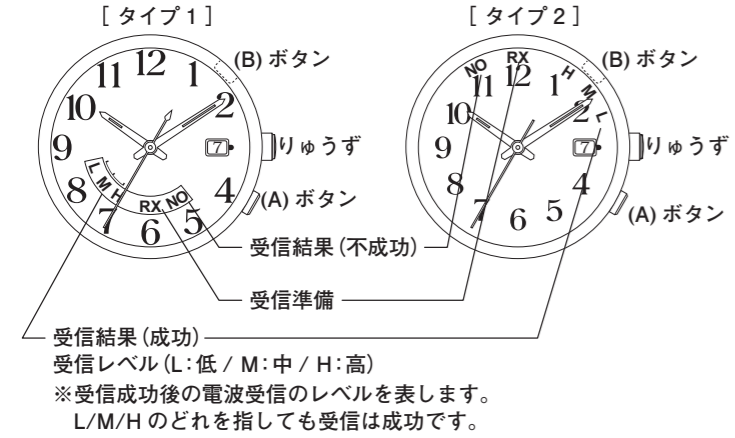
<中留めに窓がある場合>
中留の隙間の窓からバンドコマとコマの間が覗ける様にしてください。

<窓がない場合：バンド裏面>
バンドコマ間
中留ダボ

② ドライバーの様なもので中板を下げます。

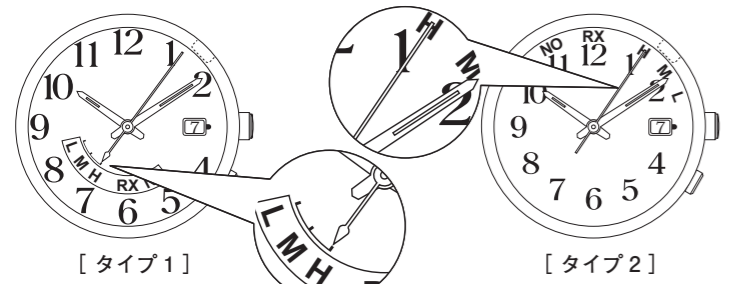
③ 留め金カバーを中留に引掛けてから留め金カバーの蓋をしてください。

1. 各部の名称

受信レベル（L：低 / M：中 / H：高）
※受信成功後の電波受信のレベルを表します。
L/M/Hのどれを指しても受信は成功です。

※受信結果を秒針の先端と根元で表す2タイプがあります。お手持ちの時計をご覧の上、デザインをお確かめください。
デザインが違っても取扱方法は同じです。以下の説明の絵はタイプ1のモデルです。

2. 電波の受信方法

1. 定時受信

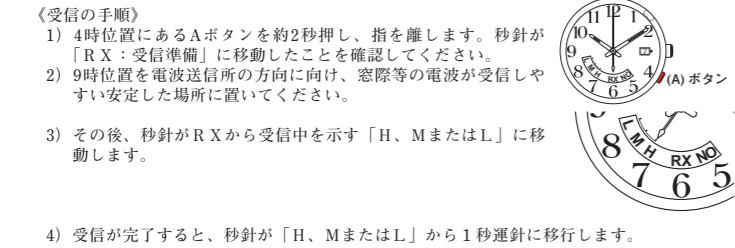
毎日午前２時と午前４時の２回、秒針が「ＲＸ：受信準備」に移動し、自動的に受信を始めます。

《受信の方法》
時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。午前２時と午前４時の２回、自動的に電波を受信します。

2. 強制受信

時計を腕から外して、９時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。４時位置にあるAボタンを約２秒押すと、受信を始めます。
※強制受信中は時計が１秒運針するまで動かさないでください。

《受信の手順》
1）4時位置にあるAボタンを約2秒押し、指を離します。秒針が「ＲＸ：受信準備」に移動したことを確認してください。
2）9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

3）その後、秒針がＲＸから受信中を示す「Ｈ、ＭまたはＬ」に移動します。

4）受信が完了すると、秒針が「Ｈ、ＭまたはＬ」から１秒運針に移行します。

※どうしても受信できない場合は、お手数ですが、後述の「4.手動での時刻合わせ」を行ってください。

3. 復活自動受信

充電不足で時計が止まった後、時計に光を当て十分に充電されると、一度だけ自動的に受信を行います。

《受信の手順》
9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の直射日光が当たり、かつ電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

4. 受信中の秒針の位置

［受信準備中：RX］
秒針がＲＸに移動し受信の準備を始めます。
分針は秒針に対応した位置で停止します。

［受信中：H・M・L］
秒針が受信レベルに対応した位置に移動し受信を始めます。
受信をしている間（秒針が受信レベル表示中）も、正しい時刻を表示するように秒針が回転し、分針を現在時刻に合わせます。

［受信完了］
受信が完了すると、各針およびカレンダーが自動的に修正され秒針が１秒運針を始めます。

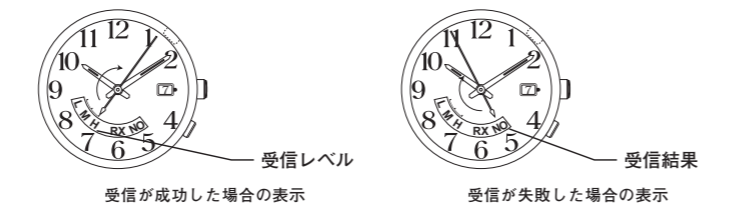
注意：受信中まれに受信局が切り替わり、秒針が「ＲＸ：受信準備」に移動し再度受信を開始する場合があります。
注意：受信中は、秒針が「ＲＸ：受信準備」から、「H、MまたはL：受信レベル」に移動します。
受信が完了すると、秒針が１秒運針にもどります。１秒運針するまで時計を動かさないでください。

5. 受信結果の確認方法

受信完了後Aボタンを１回押すと、秒針が高速で「Ｈ、Ｍ、ＬまたはＮＯ」へ移動し受信結果が確認できます。

注意：Aボタンを２秒以上押し続けると、強制受信を開始します。

受信が成功した場合の表示

受信が失敗した場合の表示

受信結果は10秒間表示し、自動的に現在時刻にもどります。また、表示中にAボタンを押しても現在時刻にもどります。

《受信結果》
●受信が成功すると：受信結果にもとづいて、自動的に時刻、カレンダーを修正し、１秒運針を始めます。
●受信に失敗すると：受信前の時刻、カレンダー表示から、受信にかかった時間を追加した時刻にもどり、１秒運針を始めます。

3. 基準位置の確認と合わせ方

基準位置とは、時計内部のICが記憶している31日と1日の間 00時00分00秒のときの針の位置です。通常、この基準位置では日付が「31日と1日の間」 時分秒が「00時00分00秒」を表示します。ただし、電池交換や時計に強い衝撃を加えられたときや、静電気の影響等でICの記憶している位置と、実際の針の位置がずれる事があります。基準位置がずれていると受信しても正しい時刻を表示しませんので合わせ直してください。
※この操作は電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ行ってください。
※操作中、針が動いているときはりゅうず操作・ボタン操作は行わないでください。

①基準位置の確認方法

1）りゅうずは通常位置で、Bボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。

●時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針をした後、各針が基準位置（0位置）へ高速（正転または、逆転）で移動し停止します。

●時針は日付が「31と1」の中間を表示するまで、運針を続けます。

●日付は時針に連動して切り替わり、「31と１」の中間を表示し停止します。
※日付が逆回転（反時計回り）で切り替わる場合は「1」を表示する場合があります。

2）基準位置を表示した後、Bボタンを押すと、高速で現在時刻にもどります。または、30秒以上ボタン操作またはりゅうず操作を行わないと、自動的に現在時刻にもどります。

②基準位置の合わせ方

1）りゅうずは通常位置で、Bボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。

●時針がデモンストレーション運針した後、各針が基準位置へ高速で移動し停止します。

2）りゅうずを1段引き位置にし、りゅうずを回して日付を「31と1」の中間に合わせ、時針を12時に合わせます。

●りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると、時針が連続運針します。時針が２回転すると、日付が1日分切り替わります。日付が「31と1」の中間を表示するまで、時針を連続運針させてください。連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

●日付が「31と1」の中間を表示した後、時針が12時を指すまでりゅうずをゆっくり回してください。

3）りゅうずを２段引き位置にし、りゅうずを回して秒針と分針を00分00秒に合わせます。

●りゅうずを回転（１クリック）させると、秒針が１秒分運針し秒針に合わせて分針が運針します。りゅうずを右または、左に回転させて、「秒針と分針」を00分00秒に合わせます。

●りゅうずを連続回転（２クリック以上）させると、秒針と分針が連続運針します。連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

4）りゅうずを通常位置にもどし、(B)ボタンを押します。

●各針と日付が高速で現在時刻にもどります。

※これで基準位置合わせは終了です。基準位置合わせ後は、必ず強制受信を行ってからご使用ください。

4. 手動による時刻、カレンダー合わせ

この時計は、海外など電波が届かない地域で使用する場合に、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域にもどったときは、定時受信、または強制受信を行ってください。

①秒針と分針の修正

1）りゅうずを２段引き位置にします。
秒針が正転または、逆転で0秒位置まで高速運針し停止します。
0秒位置で停止しない場合は、「**3.基準位置の確認と合わせ方**」を参照し、「基準位置合わせ」を行ってください。

2）りゅうずを回して、「分針」を合わせます。
1.右に回す（1クリック）と、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分運針します。
2.左に回す（1クリック）と、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分逆転します。
※りゅうずを連続回転（2クリック以上）させると、秒針と分針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意：分針に連動して時針も運針するため、秒針と分針を連続運針して時針を合わせることができます。また、時針に連動してカレンダーも切り替わります。
注意：2月30日や4月31日などの非存日は自動的に早送りします。早送り中は秒針と分針が12時で待機し、時針が連続運針し非存日を早送りします。

3）時報（TEL.117など）に合わせて、りゅうずを通常位置にもどしてください。

②月と年（うるう年からの経過年）の修正

1）りゅうずを１段引き位置にします。
カレンダーの修正状態になり、秒針が記憶している「月」と「年」の位置に移動し停止します。

2）りゅうずを回して、「月」と「年」を合わせます。
1.右に回して（１クリック）、「月」と「年」に対応した位置に秒針を合わせます。
2.左に回す（１クリック）と、秒針が逆転します。
※りゅうずを連続回転（２クリック以上）すると、秒針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
(例)：うるう年の12月の場合：０秒の位置に秒針を合わせます。
うるう年から３年経過した年の４月の場合：
23秒（４時と５時の間）の位置に秒針を合わせます。

注意：りゅうずを１段引きしたときの月と年から、秒針を２周以上回して修正しようとすると、秒針が２周回った時点でストップし、自動的にもとの月と年の表示にもどります。

3）月と年修正後、りゅうずを通常位置にもどしてください。秒針が現在時刻にもどり、運針を開始します。

《非存日に合わせた場合》
日付を合わせた後、月を変更し日付が非存日になった場合、修正状態からりゅうずを通常位置にもどすと、日付が自動的に翌月の１日に切り替わります。

《月と年の見方》
☆月の見方
１月：１時と２時の間
２月：２時と３時の間
：
：
12月：12時と１時の間
☆年の見方
うるう年：各月のゾーンの最初の目盛り
うるう年から１年目：各月のゾーンの１目盛り目
うるう年から２年目：各月のゾーンの２目盛り目
うるう年から３年目：各月のゾーンの３目盛り目

《うるう年からの経過年早見表》

年	経過年数	年	経過年数	年	経過年数
2009	１年目	2011	３年目	2013	１年目
2010	２年目	2012	うるう年	2014	２年目

③時針と日付を修正する手順

※日付は時針に連動しているため、単独では修正できません。時針を連続運針して切り替えます。
※時針と日付の修正は(B)ボタンを押し、時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針した後10秒間または、時針修正後、時針が止まってから10秒間修正ができます。10秒間りゅうずまたは、ボタンいずれの操作も行われないと、自動的に通常表示にもどります。

1）りゅうずを通常位置にします。

2）Bボタンを１回押すと、時針がデモンストレーション運針後、「時針」と「日付」の修正状態に移行します。

3）りゅうずを連続回転（２クリック以上）させると、時針が連続運針します。時針が２回転すると、日付が１日分切り替わります。当日の日付を表示するまで時針を連続運針させてください。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
※「日付」は午後10時頃から午前３時の間に切り替わります。
※「月」が小の月に設定されている場合、「日付」を30日から31日に切り替えても非存日は、自動的に送られ翌月の１日を表示します。

4）りゅうずを回して「時針」を合わせます。
●右に回す（１クリック）と、時針が１時間分運針（時計回り）します。
●左に回す（１クリック）と、時針が１時間分逆転（反時計回り）します。
※りゅうずを連続回転すると、時針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意：時刻修正するときは、午前、午後に注意して合わせてください。「日付」が切り替わったときが午前0時です。

《通常ご使用時のカレンダーの切り替わり時間》
●月と年：1日の0時00分00秒で切り替わります。
●日　付：午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。

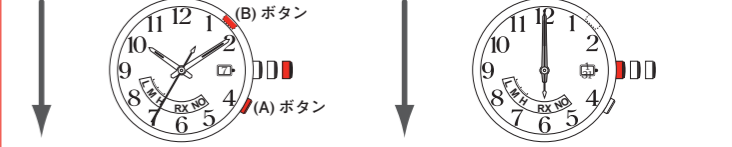
困ったときは

次のような場合は下記操作を行って適正な状態に時計を修正してください。
・操作をしていて時計の現在状態が分からなくなったとき
・受信結果の確認で秒針がOK・NO・「H/M/L」以外を示すとき
電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ下記操作を行ってください。

①りゅうずを2段引きにします。
※秒針が一定位置まで動いて停止します。

④りゅうずを1段引きに戻した後、りゅうずを回して、日付と時針を31日と1日の間 00時にします。

②Aボタンと Bボタンを同時に約２秒間押します。
※ボタンを離すと秒針・時針が動きます。

⑤りゅうずを通常位置に戻します。数秒後に秒針が動き始めます。

③りゅうずを回して分針と秒針を00分00秒にします。

⑥Aボタンを2秒以上、長押して強制受信をします。

結果確認：針がNOをさした場合
電波受信ができませんでした。表面の「**電波時計について 受信環境について**」をご参照の上、電波受信状態を良くしてから再度「**2. 電波の受信方法　2. 強制受信**」を行ってください。
どうしても受信できない場合は、「**4. 手動による時刻、カレンダー合わせ**」を行ってください。

結果確認：針がL、M、Hをさした場合
時刻が修正され、正しく表示されております。ご使用を開始してください。

製品仕様　HR15

1.特　　　徴：日本長波標準電波（JJY 40および JJY 60）を2局自動切替受信し、時刻・経過年数（うるう年識別）※1・月・日を自動修正できるあかり発電機能搭載のアナログ電波時計
2.基 本 機 能：時 刻 表 示 ／時･分･秒（時針は2分毎に運針します）
日 付 表 示 ／日付板による日付表示機能（2100年2月28日まで完全自動修正）
年 月 表 示 ／秒針による経過年数（うるう年識別）※1・月表示機能
※1：「**4. 手動による時刻、カレンダー合わせ　②月と年（うるう年からの経過年）の修正**」を参照してください。
3.付 加 機 能：受信結果確認機能
電波受信による時刻自動修正機能（定時受信・強制受信・復活自動受信）
受信局自動選択機能（JJY 40および JJY 60）
電波受信機能（定時受信、強制受信、復活自動受信）
受信準備表示機能（RX）
受信中レベル表示機能（H、M、L）
受信結果確認機能
あかり発電機能
パワーセーブ機能
充電警告機能
4.時 間 精 度：［電波受信ができない場合］
平均月差±20秒以内（常温携帯+5℃～+35℃）
5.受 信 機 能：定時受信・強制受信・復活自動受信
6.作動温度範囲：−10℃～+60℃
7.受 信 電 波：日本長波標準電波
福島局（周波数40KHz： JJY 40）
九州局（周波数60KHz： JJY 60）
8.定時受信時刻：1日最大2回
2：00（AM）／4：00（AM）
9.受信待受時間：最短約2分／最長約15分（定時・強制・復活自動受信共通）
10.使用二次電池：二次電池　1個
11.持 続 時 間：フル充電～止まり＝約2年（パワーセーブが作動しているとき）、
フル充電～止まり＝約6ヶ月（パワーセーブが作動しないとき）、
2秒運針～止まり＝約6日

※二次電池の交換は絶対に行わないでください。